

■千代田区文化芸術プラン(第5次)素案に対するご意見と区の考え方

No	意見提出者の区分	意見内容	区の考え方
1	3.区内の事務所または事業所に勤務する方	<p>自治体の文化芸術施策においては、今後は「一部の愛好家のための施策」から「地域に暮らすすべての住民に開かれた公共的資源」へと発想を広げることが重要と考えられています。文化芸術は鑑賞や創作の機会を提供するだけでなく、住民の健康、社会参加、地域のつながりを育む基盤として大きな可能性を持っています。</p> <p>特に、近年WHO(世界保健機関)が提唱する「クリエイティブヘルス」の概念は、文化芸術を健康増進の手段として活用する上で有効です。美術・音楽・演劇などの創造的活動は、ストレス軽減や心の安定、生活の質の向上に寄与することが多くの研究で示されています。自治体として、文化施設などの既存の拠点を活かし、誰もが気軽に参加できる文化芸術プログラムを展開することで、住民の健康づくりに寄与できると考えます。</p> <p>また、同じく近年注目を集めている概念である、つながりで人を健康にする「社会的処方」の観点からも、文化芸術施策は大きな役割を果たします。地域で孤立しがちな若者、子育て世代、高齢者などが、文化芸術を媒介として人とつながる機会を得ることは、孤独・孤立の改善に直結します。医療・福祉分野と連携し、文化芸術活動への参加を社会的処方の選択肢として提示できる仕組みづくりを期待します。</p> <p>さらに、次世代を担う子どもたちにとって、文化芸術は自己表現の手段であると同時に、文化施設は安心して過ごせる「居場所」となり得ます。放課後や休日に、子どもたちが自由に創作し、異年齢の仲間や地域の大人と交流できる環境を整えることは、創造性の育成だけでなく、地域全体の教育や福祉の向上にもつながります。なお、その居場所づくりにあたっては、こども家庭庁の推進する「こどもの居場所づくり支援体制教科事業」の補助金等が活用可能と思われま。</p> <p>これらを実現するためには、文化振興課や指導課、コミュニティ総務課、商工観光課といった既存の文化系部署だけでなく、保健所や児童・家庭支援センターなど健康や福祉を担う部署が横断的に関与する体制が不可欠であると考えます。千代田区の発展のため、区の文化芸術プランが文化と健康、福祉、教育をつなぐ総合的な施策として推進されることを強く望みます。</p>	<p>貴重なご意見をありがとうございます。リニューアルオープン後のちよだアートスクエアは、子どもたちが自由に創作活動を行い交流できる場、多世代の方の居場所としての機能も果たす想定です。関連部署と横断的に連携しながら、地域住民の健康づくりにも寄与できるような仕組みを検討してまいります。</p>
2	1.区内に住所を有する方	<p>私は千代田区在住で、創作活動を行っています。区内には、すずらん通り周辺のギャラリーや、かつての3331 Arts Chiyoda など、文化芸術の拠点となる場所が多数存在していますが、区在住アーティストがそれらとつながり、発表の機会を得るための公的な仕組みが現状ではありません。</p> <p>実際に区の窓口で確認したところ、区在住アーティストを対象とした展示機会や紹介制度は設けられていないとのことでした。そのため、区内に文化資源が集積しているにもかかわらず、地域に暮らす創作活動を行う区民の存在や活動が可視化されにくく、十分に活かされていない状況があると感じています。</p> <p>本素案で掲げられている「地域に根ざした文化芸術の推進」を具体化する施策として、全国公募に限らず、千代田区在住アーティストを対象とした公募展示や紹介の仕組みを設け、区内ギャラリーや文化拠点と連携した発表の場を創出することを提案します。これは、年齢やキャリアを限定した育成施策ではなく、区内で創作を続ける多様なアーティストが地域と接点を持つための仕組みとして位置づけられるものです。</p> <p>また、すずらん通り周辺には多くのギャラリーが集積している一方で、その存在や活動が区民に十分に知られておらず、日常的な文化体験につながりにくい現状もあります。区が進めているウォーカーブルなまちづくりの取組と連動し、区在住アーティストの公募展示を契機に、歩いて回遊しながら文化芸術に触れられる環境をつくることは、文化芸術の振興と地域の活性化の双方に寄与すると考えます。</p> <p>千代田区が「文化を鑑賞するまち」であるだけでなく、区内で創作活動を行う区民とともに文化を育てるまちとなるよう、本文化芸術プランにおいて、区内在住アーティストの創作活動と発表機会を支える視点を、今後の施策として位置づけていただくことを要望します。</p>	<p>貴重なご意見をありがとうございます。今後開始予定のちよだアーティストバンク事業では、区にゆかりがあるアーティストを紹介するウェブページを制作し、アーティストのインタビュー等を通じたネットワークの形成を図ります。関連部署とも連携し、区内にアーティストの活動の場、地域と交流できる場を増やせるよう、検討を進めてまいります。</p>
3	3.区内の事務所または事業所に勤務する方	<p>本プランは、文化芸術基本法、東京都文化戦略2030、区の関連企画を鑑み、3つの重点目標(柱)を掲げている。プランでは、文化芸術遺産の保存と継承を掲げた事業が設定されている(施策1)。そして、情報授受のネットワーク(施策2)、発表の場の確保と受容機会の提供(施策3、4、5)、教育活動(施策6、7、8)が用意されている。一見、抜け目のないプランであるが、3つの重点目標(「保存して伝える」、「創る」、「育てる」)が個別化している感がある。さらに一歩進んで、千代田区特有の文化芸術プランを総括する大きな一本の柱を明確化し各施策に反映させる必要があると考える。そのため必要な作業は、区の文化芸術のオリジナリティに目を向けることと利用者や関係者のプロフィールの確認だ。千代田区は、神田エリアのような文化が存在すると同時にオフィス街が広がる日本のビジネスの中枢である。その独特性の中に住民がおり、在勤者がいる。私が消防団で出会った地元住民は、江戸期からの価値観を引き継いでいる江戸っ子がいる。一方で、在勤者は日本の中心地特有の勤務環境で職務に当たっている。このような条件を勘案すると、千代田区文化芸術プランにおいて重要なのは「江戸と東京双方の価値観」を見失わないこと、それが千代田区らしさであり大きな一本の柱だと思う。重点目標1はさておき、同2、3ではこういった千代田区らしさが反映されているかを確認して洗い出してみてもどうだろうか。例えば、重点目標2の施策4であれば、千代田区でこそ行うべき事業が助成対象と設定しているか、施策5の拡充事業であれば単なる発表会に終始していない事業者を想定しているかといった視点である。また、本プランでは担当課も文化振興課を中心にしながら横断的な広がりがある。したがって、このプランに関わるセクションの担当者それぞれが、千代田区のオリジナリティのある文化芸術のあり方(=「江戸と東京双方の価値観」)の理解と共有が求められる。今一度、「江戸と東京双方の価値観」に着目してプランを巨視的に精査することが期待される。それによって、他の自治体とは一味違う文化芸術の形成が可能になるであろう。</p>	<p>貴重なご意見をありがとうございます。千代田区で事業展開する意義を意識しながら、各施策を推進してまいります。また、関連部署間で連携を図りながら、すべての事業において千代田区らしさを意識した事業展開ができるよう努めてまいります。</p>
4	1.区内に住所を有する方	<p>第5次千代田区文化芸術プラン(素案)に対する意見の機会を下さりに有難うございます。さて、私は、千代田区歌の歌詞が、文化芸術のみならず、千代田区が目指す方向を70年前に表現していると感じております。区は、文化芸術に関する施策を多岐に渡り実施していただいており、有り難く思っております。個人的には、ちよだアートスクエアの利用・活動が多くてありますが、日比谷図書館の講演会も多く利用させていただき、興味と知識を豊かにしてくれています。プランにもあります様に、区は、皇居を中心として、東西南北に其々特徴のある文化芸術資源を豊富に持っており、これを豊かな生活を送るために利用しないのはもったいないと思っております。約12年間のちよだアートスクエアの管理運営団体の活動は、初期の3年間ほどは、町民も、管理運営団体もお互いを積極的に理解しようとする、もやもやしていた時期でした。それは、私たちが普段アートに触れていないからでした。神田祭やイベント開催を通して積極的な交流が始まりましたが、新型コロナウイルス感染時期、施設の大改修工事計画で休館となり、やっと関心と興味が出始めたにも拘わらず、地域はアートから遠ざかり、アートに触れない状況になりました。利用できる建物として理解していた方々が、文化芸術がこの地から発信出来ないことよりも利用できないことが重要だったりしました。3つの重点目標に沿って、お願いしたいことは、1 芸術に触れる機会を幼少期より多く与えてもらいたいです。プランの中にも記載されていましたが、もう少し積極的に触れさせる方法、例えば、幼児、小学校低学年から、週1回は、芸術に触れるなど、少年の野球やサッカー、バスケットボールなどの底辺拡大作戦が、芸術に興味を持つ一助になると考えます。2 地域・町の祭などの準備・実行の中で諸先輩の知識や所作を学び、伝承・継承していくことが大事です。そういった伝統を伝承・継承していくために、区からも支援していただければと思います。3 4つの拠点施設の2つが同時に休館するのは如何なものか。また、今後の課題の団体同士の交流は必要と考えますが、各拠点施設の地域の交流もだと思えます。4 ちよだアートスクエアの練成公園と一体化している拠点施設は他にありません。今迄も公共的イベントには公園も貸していただいておりますが、管理運営団体と町会が開催するイベント(バザール、緑日、フリーマーケットなど)利益が生まれる際にも、公園をお貸しいただきたい。(地域の活性化、コミュニケーションに繋がります)5 プラン第4章の「施設の展開」の重点目標に沿った、8つの施策のより積極的な推進を望みます。6 プラン第5章の「計画の推進」に関して、拠点施設の存在とその内容に対する認知度が全般的に低いと感じます。如何に地域の意見・意向を吸い上げるかが問題。出張所だけではなかなか難しいかも知れません。7 管理運営団体との契約期間に関して、先にも触れましたが、地域と馴染み始めるのに3年ほどかかり、馴染んできた頃に管理運営団体が変わるのは如何かと感じます。せめて、7~8年、10年の契約期間を設けるか、更新制度を設けたら如何でしょうか、ご検討願います。</p>	<p>貴重なご意見をありがとうございます。下記のとおり回答させていただきます。 1 子どもが文化芸術に親しむ機会の創出については、幼少の頃より文化芸術に親しみをもち触れることが重要と考えております。様々な機会を捉えて文化芸術に触れる機会を創出できるよう引き続き、関係部署との連携を図りながら事業を進めてまいります。 2 祭などの準備・実行を通じて知識や所作の伝承・継承は、区としても重要と考えております。地域・町から伝え継がれる伝統を後世につなげていけるよう、事業を推進してまいります。 3 今回2か所の拠点の工事期間が重なり、区民の皆様にご迷惑をおかけし、誠に申し訳ありません。今後は改修工事を計画的に行うよう努めてまいります。地域との交流については、各施設は地域の皆様から信頼いただくこと、それが全区民の利用向上にもつながるものと認識しております。 4 本施設の特徴をいかにせるよう、関係部署と連携しながら検討を進めてまいります。 5 本プランの改定に当たっては、学識経験者や区民の皆様のご意見を踏まえ、策定しております。今後は、重点目標に基づき、各施策を推進してまいります。 6 本施設の認知度向上は課題の一つと認識しています。改修にあたり新たに音楽・動画配信スペースを加えるなど、利用促進を図っています。今後も様々なイベントを通じて地域の声を聴き、区民の皆様にとって身近な存在となるよう努めてまいります。 7 運営事業者の選定について、行政の公正性や中立性の観点から、一定期間での契約の見直しを行っています。一方で、社会経済状況の変化や業界の状況などを考慮する必要があります。ご提案について、第4期以降の運営について検討する際の参考とさせていただきます。</p>